

令和8年5月14日
教務部長 三輪 仁

令和7(2025)年度 卒業生アンケート結果について

【講評】

本アンケートは、卒業生が本学での学びや様々な活動、教職員とのかかわりを、どのように評価したのかを示しています。

令和7(2025)年3月卒業生の多くは、1年生(2022年)時こそ感染症拡大の影響が断続的に見られたものの、専門課程へと進んだ2023年以降は講義やゼミ活動、サークル活動、海外実習などの行動制限は取り払われ、さまざまな面で学生生活を謳歌できるようになった世代となります。

本年度においてまず評価すべき点として、回答率が全学で85.5%と前年度(50.5%)より大幅に上昇し、事前の目標値としていた85%(「私立大学等改革総合支援事業」における評価項目の満点(3点条件)を大幅に上回ったことが挙げられます。

本アンケートの回答はMicrosoft365Formsを用いておりますが、前年度においては回答率引き上げを図るべくログイン不要で回答可能としたところ、一部複数回答する学生が生じ、回答結果の一部が利用できず回答率は50.5%にとどまることになりました。この経験を踏まえ、本年度においてはMicrosoft365へのログインを必要とし、また対象学生への周知の早期化と徹底を図りました。回答開始を1月下旬に繰り上げることでまず各学部4年次演習科目の最終講義回を担当教員の先生より周知いただき、その後もKIUポータルを通じ学生への呼びかけを図りました。さらに最後の回答機会となる卒業式当日においても、卒業証書受け渡し時の担当の先生方の協力が徹底されたことで、このような成果につながりました。

つづいてアンケート結果の概説に移ります。本アンケートにおいて回答者は、「大学生活」についての3設問、「本学の教育を通じて身につけたこと」について9設問を回答しました。それぞれの設問においては、5. そう思う、4. ややそう思う、3. どちらでもない、2. あまりそう思わない、1. そう思わないの5段階で評価を行い、評価を点数換算して回答者平均を算出しました。

項目別にみると、設問4以外は回答者平均値が4を超えており、全設問が4を割っていた昨年に比べ大幅な上昇となりました。また、最高評価である「5. そう思う」の回答比率が5つの選択肢の中で最多となったのは設問4を含む8項目と、昨年の2項目から大きく伸びております。ただし、昨年度はログイン不要での回答であった点は考慮する必要があります。

最も回答者平均が高かったのが設問12「コミュニケーション能力を身につけることができましたか」で4.21となりました。同設問においては46%の回答者が「5. そう思う」を選んでおります。前年からの上昇が最も大きかったのは、設問10「チームワーク力を身につけることができましたか」でプラス0.3ポイントとなっております。一方、回答者平均値が唯一4以下(3.87)であった設問4「授業科目の開講曜日・時限は時間割が組みやすいものでしたか」においても、年々上昇の傾向にあります(2024年:3.56 2025年3.76)。本設問に関しては、外国語選択科目の追加開講

など学務事務室においても先生方の協力のもと改善の取り組みを進めております。

今後の課題としましては、「5. そう思う」を「4. ややそう思う」が上回ったのが設問2、4、5と教育・学びの質に関する項目であった点にさらなる改善の余地があるとみられ、今後の対応が必要と思われます。

自由回答については、公開する回答結果には回答者情報は紐づけられませんがログイン方式への変更が、回答に何かしらの影響が生じることへの懸念がありましたが、いただいた感想には忌憚のない意見が多く、厳しくも有益な卒業生の声が寄せられました。

まず目につくのが、学内の多様な活動の活発化を期待する意見になります。「地域との関わりが年々強くなっていると思います。更に強く個性的なイベント、九国！とわかるものがあるのもっと面白いのではないかと思います。九国大は“狭く深く”が強みだと思います」「もっと校内活動を活発にすべきだと考えます。福大みたいに活動が活発化するシステムを作ると、大学生ライフが楽しめそうだと感じました」のように他大学を意識した本学の強みづくりの提案もありました。また、サークルを増やしてほしいという意見が複数寄せられたほか、留学生と日本人学生の交流、異なる背景を持つ学生同士の交流の機会や、在学生と卒業生を繋ぐ機会の増加を期待する意見もありました。

改善を求める意見においては、授業管理に関するものが目立ちます。「ピ逃げの対策にもっと力を入れて欲しかった」など、偽装出席行為はまじめに授業を受けている学生が非常に不満に思っているということを改めて痛感いたします。「先生によって、出席やカードのルールが違うので統一してほしい」といった、先生ごとの授業ルールの違いに戸惑う意見も寄せられております。これを踏まえ、より良い受講環境とわかりやすい授業ルールの徹底を先生方に周知し、改善に向けて取り組んでいきたいと思っております。

設問4とも関係しますが、「履修漏れのせいで計画通り単位が取れない場合があった」「語学選択の抽選が通りにくい」といった履修に関する改善を求める意見も複数ありました。

ゼミに関する意見も複数あり、特にゼミ間の活動量の差に関する意見が法学部を中心に複数寄せられています。また、ゼミ募集にあたり関連する情報発信をもっと行ってほしいという意見もありました。

昨年に続いて荒天時の開講・休講の判断に関する改善への要望も複数寄せられました。公共交通機関からの情報開示タイミング、近隣大学の対応との兼ね合いなどもあり、遠方から通学する学生に満足いただける時間での通知は難しい状況ではありますが、休講判断を行いやすくするための補講日の設定など少しずつ改善に向けた取り組みを行っております。

公欠に関しても改善を求める回答が複数寄せられました。この点に関しては制度が手厚い大学との比較からの意見に寄ってございましたが、一方で公欠制度そのものを撤廃する流れも顕著となり、本学のなかでも意見が分かれる案件となっております。

最後に、「学生に対するアンケートについて大学側で協議する場があるのかどうか不透明で、実際にアンケートをもとに協議されているのであればそれをオープンにすべき。学生の意見を吸い上げる場を増やすべき」という手厳しい意見がありました。実際には学生からの意見をもとに改善された点も多々あり、協議過程や何が変わったかについての情報開示については検討の余地があります。

【参考 2025年度と2024年度の数値の比較】

令和7(2025)年度 卒業生アンケート結果

	法律	地域経済	国際社会	総計
卒業者	119	191	55	365
回答者	101	165	46	312
回答率	84.9%	86.4%	83.6%	85.5%
(参考)2024年	43.9%	56.0%	46.1%	50.5%

	設問	2025年 回答平均	参考 2024年
設問2	大学生活を通じて期待した教育は受けられましたか	4.03	3.85
設問3	履修や授業について教員や職員に相談することができましたか	4.09	3.97
設問4	授業科目の開講曜日・時限は時間割が組みやすいものでしたか	3.87	3.76
設問5	幅広い教養を身につけることができましたか	4.09	3.92
設問6	専門的知識と技術を身につけることができましたか	4.03	3.83
設問7	論理的に考える能力を身につけることができましたか	4.13	3.97
設問8	課題を発見し解決する能力を身につけることができましたか	4.17	3.99
設問9	積極的に興味をもち、行動する能力を身につけることができましたか	4.13	3.98
設問10	チームワーク力を身につけることができましたか	4.13	3.83
設問11	必要な情報の収集と的確な整理・分析をする能力を身につけることができましたか	4.13	3.93
設問12	コミュニケーション能力を身につけることができましたか	4.21	3.96

5. そう思う 4. ややそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. そう思わない

